

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4071201356		
法人名	有限会社 ナオン		
事業所名	グループホーム まふえー		
所在地 (電話番号)	福岡市西区大字西浦字川フケ1038番地1 (電話) 092 - 809 - 1239		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4 - 6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年10月28日	評価確定日	平成21年12月7日

【情報提供票より】(平成21年10月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 4 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 5.6 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	(光熱水費) 16,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (10月15日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	1 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 79 歳	最低 63 歳	最高	91 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉田内科消化器科・コスモ歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

夏の到来を告げてくれる季節風を意味する「まふえー」は、糸島半島の先端に位置し、西浦漁港までの徒歩5分の道のりは、入居者の方々にとっての格好の散歩道となっている。玄海灘を臨む景勝地「二見が浦」にも近く、恵まれた自然環境の中にあり、地域の漁師や農家の方々との契約により、新鮮な魚や野菜が届けられる。職員も地域住民が多く、ここ数年離職者が発生していない事もあり、入居者との馴染みの関係・地域との関わりの継続性という点においても、充実した取り組みがある。入居者一人ひとりの、その日その時の意向に合わせた支援に努めている姿があり、自由な雰囲気が伝わる。職員のさりげない見守りの中、散歩する方・デッキで洗濯物を干したり日向ぼっこをする方・居室で趣味活動を楽しむ方など、日々の暮らしの中で、それぞれの方の意思を尊重しながら、自然体での支援が行われている。また介護相談窓口が地域に向けて案内され、AEDも設置される等、地域に向けての活動も積極的に行なわれており、福祉拠点としての役割も担う事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価以降、運営推進会議への行政担当者の出席が実現しており、具体的な取り組みが行なわれている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の内容については、客観的な視点からの記載となっており、評価を活用し、日々のケアの再確認の機会としても取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議への家族・行政担当者の参加がしやすいように、スケジュール調整に努めている。入居者・家族・近隣住民・行政職員等の出席により、活発な意見交換や提案がなされ、運営に反映させるよう努めている。外部評価の実施についても、事前連絡・事後報告が行なわれている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	事業所として苦情相談窓口責任者を設置し、重要事項説明書に関係機関の連絡先を明記している。運営者の連絡先も伝えており、職員には伝えにくい内容についても対応できるよう配慮している。管理者・職員は家族とのコミュニケーションを大切にしており、直接要望を聴くことも多い。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	近所の方の協力を得て、敷地内の菜園で花や野菜を育てたり、散歩の途中で会話を楽しむなど、日常的な近所付き合いがある。小・中学校の社会科見学や体験学習での来訪や、保育園の行事に招待されており、子ども達とのふれあいは入居者の一番の笑顔となっている。また先生による本格的なマジックショーが披露されることもある。高齢者相談窓口が地域に向けて案内されており、AEDも設置されている等、地域における福祉拠点としての役割も担っている。隔週土曜日には、ホームの敷地を移動パン屋さんへ提供し、地域住民と共に入居者・職員も購入している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域密着型サービスの意義をふまえた独自の理念が、運営者・職員により創られている。設立時の「普通の暮らし+ 」という理念も、自然体で地域に溶け込んでいる事業所の印象と重なる。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	職員も地域住民が多く、「入居者が地域と共に、地域の一員として暮らすことを支援いたします」という理念の実践に向けての働きかけに貢献している。また「入居者自らの意思で、考え行動し、自由・尊厳・喜びのある生活を支援いたします」という理念が言葉だけでなく、日々の暮らしの中での実践に努めていることが伝わる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	近所の方の協力を得て、敷地内の菜園で花や野菜を育てたり、散歩の途中で会話を楽しむなど、日常的な近所付き合いがある。小・中学校の社会科見学や体験学習での来訪や、保育園の行事に招待されており、子ども達とのふれあいは入居者の一番の笑顔となっている。また先生によるマジックショーが披露されることもある。		高齢者相談窓口が地域に向けて案内されており、AEDも設置されている等、地域における福祉拠点としての役割も担っている。隔週土曜日には、ホームの敷地を移動パン屋さんに提供し、地域住民と共に入居者・職員も購入している。
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	前回評価以降、運営推進会議への行政担当者の出席が実現しており、具体的な取り組みがある。自己評価の内容についても、客観的な視点からの記載となっており、評価を活用し、日々のケアの再確認の機会として取り組んでいる。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議への家族・行政担当者の参加がしやすいように、スケジュール調整に努めている。入居者・家族・近隣住民・行政職員等の出席により、活発な意見交換や提案がなされ、運営に反映させるよう努めている。外部評価の実施についても、事前連絡・事後報告が行なわれている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム まふえー

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	運営・業務上の疑問点への問い合わせや、困難事例等の情報共有・相談等、行政担当者との連携を図っている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、管理者・ケアマネージャーが中心となり、必要時の対応を行なっている。資料を整備し、活用に向けての支援が行えるよう勉強会が実施されている。今後は職員全員の知識も更に深めながら、地域へ向けての情報発信にも期待したい。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	毎月のように事業所便り「まふえー通信」を発行し、日々の暮らしの様子を写真と共に報告している。職員がコメントを記載する欄もあり、外出・外食行事等の充実が伝わる。遠方に住む家族も多く、随時電話連絡等を行なっている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	事業所として苦情相談窓口責任者を設置し、重要事項説明書に関係機関の連絡先を明記している。運営者の連絡先も伝えており、職員には伝えにくい内容についても対応できるよう配慮している。管理者・職員は家族とのコミュニケーションを大切にしており、直接要望を聴くことも多い。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	離職はほとんど発生しておらず、職員は地域住民が多い。ホーム全体で馴染みの関係があり、定期的な担当者の交代はあるが、影響はないと思われる。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用にあたっては、年齢や性別による排除は行なわれていない。地域住民が多く、離職もほとんどないため働きやすい職場環境づくりの成果とも言える。緊急時以外の残業を廃止し、育児休業の実施や慰安旅行(海外)等、運営者の意識の高さを感じる。運営者・管理者・職員の距離感の近さが印象的であった。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム まふえー

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	理念にも、自由・尊厳・喜びのある暮らしを支援することを謳っており、理念の共有・実践が人権の尊重へとつながっている。高齢者虐待防止や身体拘束についての勉強会や事例検討を行ない、意識を高めている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	資格取得や研修受講に関する費用(交通費・テキスト代・参加費用等)は、全て法人として負担しており、強力なバックアップ体制がある。今後は研修資料・記録の整備が望まれる。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	福岡市の介護事業者懇親会の立ち上げ時より関わり、現在は150程の事業所が参加するまでにネットワークの広がりをみせている。相互訪問や情報交換等の交流を行い、質の向上に向けて取り組んでいる。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	事前訪問・面談等において話し合いを重ね、情報の共有や課題の把握に努め、不安の軽減・問題の解消等、安心して入居できるよう配慮している。体験入居や家族の宿泊にも柔軟に対応している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	日々の暮らしの中で、同じ時間を共有しながら、成功や失敗、達成感などを共有し、またそういった場面が数多くもてるよう支援している。ふれあう中で、人として教わることも多くある。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム まふえー

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時に、本人・家族より、生活歴や習慣等の情報収集を行ない、本人本位の暮らしの実現に努めている。職員間の気付きの集約や、アセスメント情報の更新等、少しずつ情報を積み重ね、記録として残していく事も検討して欲しい。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族の意向をふまえ、入居者一人ひとりの担当者と介護計画作成担当者が話し合い、作成されている。</p>		<p>実際の介護は、ふれあう時間を大切にしながら、個別の支援が実践されていることが伝わるが、介護計画については、個別性・具体性にやや欠ける印象を受ける。認知症への多面的なアプローチや本人の思い等に着目し、関係者の意見や気づきを集約しながら、本人本位の「普通の暮らし+」を介護計画にも反映させて欲しい。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月毎にモニタリングを実施し、介護計画の見直しにつなげている。状態の変化に応じて、随時見直している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>入院時には定期的に面会し、洗濯等の支援も行いながら、主治医と早期退院に向けての話し合いを行っている。外出・外食等、臨機応変な対応があり、フットワークの軽さは特筆する点である。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>介護職と看護職・医療関係者との、率直な忌憚のない意見交換により、適切な医療が受けられるよう支援している。週1回の在宅総合診療の実施及び歯科の往診がある。状況に応じて、希望するかかりつけ医等の通院介助にも柔軟に対応している。</p>		

グループホーム まふえー

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	家族・医療関係者・職員の連携を図り、事業所としてできる限りの支援を行っていく意向がある。本人・家族との話し合いを重ね、方針の共有・連携を図っている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	接遇等の勉強会を行い、また日々のケアの場面においても、言葉使いや対応等、一人ひとりの誇りを損ねないように注意している。記録等の個人情報についても、鍵のかけられるキャビネットにて保管・管理されている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	散歩に出掛ける方・ウッドデッキで洗濯物を干したり日向ぼっこをする方・自室で趣味活動を楽しむ方等、一人ひとりのペースに合わせた支援に努めており、自由な雰囲気にも包まれている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	調理準備や盛り付け、後片付け等に、個々の力を発揮してもらっている。地域の漁師・農家の方々より、新鮮な食材を仕入れたり、ホームの畑での収穫を楽しみながら食卓を飾る事もある。弁当をつくり外で食事したり、近所の方々を招待してデザートバイキングを楽しんだり、また外食の機会も多く、「食」を楽しむ取り組みが充実している。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入居者間で定着している入浴時間や順番があり、希望や状況に応じて毎日でも入浴できる。広く明るい浴室があり、両側から介助できるようスペースが設けられている。現状として利用している方はいないが、機械浴も準備されている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム まふえー

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	自室を自身で掃除される方が多く、掃除機を順番に使いながら掃除する姿があった。食事の際にはご飯をつぎわけたり、ウッドデッキに洗濯物を干したり、共同生活が営まれている。外出の機会も多く、心身の安定につながっている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	恵まれた周辺環境の中、日常的に散歩に出かけている。徒歩5分ほどで西浦漁港があり、景色や雰囲気を楽しんでいる。プロ野球観戦や高級レストランでの外食、日帰り温泉旅行等にも出かけている。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	鍵をかけないケアを実践している。運営者、職員の意識・地域との関係性・周辺環境等、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支えている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	消防署立会いの避難訓練、地元消防団との合同避難訓練が実施されている。入居者の参加もあり、昼夜を想定した実践的な訓練が行なわれている。地震・水害等も想定しながら、避難経路の確認が行なわれている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	食事摂取量・水分摂取量を確認・記録し、健康管理につなげている。個々の嗜好を把握し、柔軟な対応を行っている。入居時には、きざみ食での対応であった方にも、多面的なアプローチを試み、寄り添う事で普通食が可能となった事例もある。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム まふえー

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	高い天井に見える梁、リビングから続くウッドデッキ等、広がる山々を望む、明るく開放的な共用空間がある。ソファやベンチが配置され、それぞれがくつろげる場所が確保されている。各所に殺菌エアータオルが設置されており、衛生面への配慮がある。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	使い慣れた机や椅子等の家具が持ち込まれ、入居前の生活環境を参考にしながら配置されている。ライフスタイルにあわせて、畳を敷くなどの柔軟な対応がなされている。自室で趣味を楽しむ姿もあり、個性ある部屋づくりがなされている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			